

じょうずに使おう物やお金 ～めざせ、買物名人～

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、愛媛県松前町立岡田小学校教諭・樋口典子先生が、同校の先生方とともに取り組んだ小学校家庭科における金融教育についてご紹介します。

「身近な消費生活」の新しい学習に全教職員で挑戦

樋口先生は小学校家庭科において、愛媛県の特別研修を受けた家庭科のエキスパートとして、多くの研究授業を実践してきました。2012年度、岡田小学校が愛媛県教育研究協議会伊予支部から、家庭科の研究指定を受けたことをきっかけに、「身近な消費生活と環境」（学習指導要領における内容D）に焦点を当て、新たな授業実践の取り組みがスタートしました。研究指定校として3年にわたる実践が行われ、1年目には、樋口先生と、当時の研修主任であった則友先生を中心に研究の柱立ておよび5年生での授業実践、2年目～3年目には、全校を対象に授業実践が行われました。

しかし内容Dは、ほかの内容A（家庭生活と家族）、内容B（日常の食事と調理の基礎）、内容C（快適な衣服と住まい）と比べて新しい内容のため事例や資料が少なく、同校独自でカリキュラム作りから始める必要がありました。まず同校では、1～6年生のさまざまな教科等の学習と関連付けて実践的に学ぶことを考えて指導計画を見直し、家庭生活を総合的に捉えた題材構成を工夫したり、他学年他教科等におよぶ関連教育も取り入れて行っています（図表1）。

例えば、1～2年生は道徳で「物やお金を大切に育てる学習」、3～4年生では学級活動で「お金のこづかいゲームなどを用いた「お金



愛媛県
松前町立岡田小学校
樋口典子教諭

【図表1】(内容D・身近な消費生活と環境) 家庭科と道徳・他教科等との系統表

教科等	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
家庭科					<ul style="list-style-type: none"> ○はじめのみようワッパング (5月) ○新鮮な野菜の分け方 (5月) ○できるよになつたかな! 家庭の仕度 (5月) ○物を長く大切に使うよ (5月) ○よく使う物をおおきく (11月) ○物や金銭の大切さ (11月) ○家族の計画を立てよう (11月) ○適切な買い方 (11月) ○考えよう! 元気な朝日と食事 (12月) ○家の運び方 (2月) ○おどろき! 快適生活I (2月) ○家族の表示、運び方 (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を考えよう! (5月) ○加工品の運び方 (5月) ○おしよりに使おう! 物やお金I (5月) ○修学旅行のお金の使い方 (6月) ○グリーン作戦I (6月) ○ごみ削減のための物の使い方のくみ (7月) ○おどろき! 快適生活II (7月) ○家族の表示、運び方 (7月) ○ソートアップで生活を楽しく (9月) ○エコライフ (9月) ○くふうしよう! 楽しい食事 (11月) ○おどろき! 快適生活II (12月) ○目的に合った食品の運び方 (12月) ○買い物実習 (12月) ○考えよう! これからの生活 (2月) ○環境に配慮した生活 (2月)
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○おれたクローン (1-1) (9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○こうえんの花 (4-1) (5月) ○雨のひまわり (4-5) (5月) ○おもいの (1-1) (6月) ○おもいでいっぱい (4-2) (6月) ○おぼくが大きくなったね (3-2) (2月) ○おばあちゃんのお手玉 (1-1) (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ケヤキのやさしさ (3-2) (1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日曜日のパーベキュー (7月) ○おもちゃリサイクル (1-1) (7月) ○おもしろき (4-6) (9月) ○「ふれあいの葉」で (3-2) (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふみ十年 (3-2) (6月) ○ひがなに生きるシオマネキ (3-2) (9月) ○わたしのボランティア体験 (4-4) (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○小さいからもらった幸せ (4-4) (5月) ○愛着さんからのメッセージ (3-2) (6月) ○義足のランナー (4-8) (6月) ○白痴の少女 (4-8) (9月) ○オキタル再び (4-7) (2月)
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ○1ねんせいすたあと (4月) 		<ul style="list-style-type: none"> ○じょうずにお使いできるかな (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○つづいてつづきつよう (12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動を見よう (7月) ○食生活をみつめよう (10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動について (4月) ○卒業式への参加 (3月)
生活・社会		<ul style="list-style-type: none"> ○うごうごくわたしのおもちゃ (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はたらく人とわたしたちの暮らし (9-10月) -店ではたらく人 (9-10月) ○住まいのしくみ (6-7月) ○水はどこから (6-7月) ○住まいのしくみ (9月) ○ごみのしよ理と利用 (9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○住まいのしくみ (6-7月) ○水はどこから (6-7月) ○水産業のさかな (9月) ○わたしたちの暮らしと環境 (9-10月) ○わたしたちの暮らしと環境 (10-12月) ○情報化した社会と私たちの生活 (1-2月) ○わたしたちの暮らしと環境 (2-3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○わたしたちの暮らしと食料生産 (7月) ○水づくりのさかな (9月) ○わたしたちの暮らしと環境 (9-10月) ○わたしたちの暮らしと環境 (10-12月) ○情報化した社会と私たちの生活 (1-2月) ○わたしたちの暮らしと環境 (2-3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○小さいからもらった幸せ (4-4) (5月) ○愛着さんからのメッセージ (3-2) (6月) ○義足のランナー (4-8) (6月) ○白痴の少女 (4-8) (9月) ○オキタル再び (4-7) (2月)
理科				<ul style="list-style-type: none"> ○1日の気象と天気 (5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○種子の発芽と成長 (5月) ○石の伝わり (9月) ○雲と天気の変化 (10月) ○冬の天気 (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物のくらしと環境 (7月) ○人と環境 (2-3月)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (9月) ○はらぺこ (2月) ○おどろき! 快適生活II (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (4月) ○はらぺこ (5月) ○はらぺこ (9月) ○はらぺこ (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (4月) ○はらぺこ (6月) ○はらぺこ (7月) ○はらぺこ (10月) ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (1月) ○はらぺこ (4月) ○はらぺこ (6月) ○はらぺこ (7月) ○はらぺこ (10月) ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (10-11月) ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (4-11月) ○はらぺこ (10-12月) ○はらぺこ (1-3月) ○はらぺこ (1-3月) ○はらぺこ (1-3月) ○はらぺこ (5-6月) ○はらぺこ (5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (11月) ○はらぺこ (9-12月) ○はらぺこ (9-12月) ○はらぺこ (1-3月) ○はらぺこ (1-3月) ○はらぺこ (5-6月) ○はらぺこ (5月)

5年生の実践「じょうずに使おう物」研究テーマの中心となったのが、

**手探りで作り上げた
できる・分かる考えの授業**

を大事に計画的に使う態度を育てる「学習」を実践。5、6年生の学習につなげていく工夫をしています。

【図表2】「買物シミュレーション ワークシート」



やお金くめさせ、買物名人」の5時間授業です。先生方がとくに重視したのは「できる・分かる・考える授業づくり」という視点でした。子どもたちが買物をする上で、「優先順位」を考え「意思決定」できるよ、「物や金銭の大切さ」、「金銭の計画的な使い方」、「適切な買い方」、「物を長く使う工夫」、「環境を考えたエコライフ」を学習目標に掲げ、1年目より「買物シミュレーション」を導入(図表2)。おこづかい10000円が適正な金額かどうかの検証のために事前アンケートを実施したり、シミュレーションでの子どもの反

このプロジェクトでは、金融教育が1、2年生の道徳でお金や物の大切さに気付き、3、4年生の学級活動でお金の使い方を学び、

**学校全体での金融教育の
取り組みが最終学年で実を結ぶ**

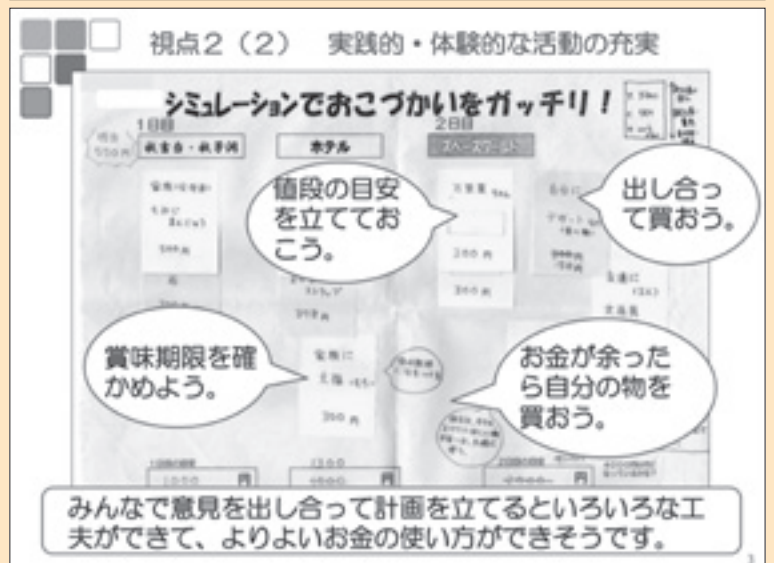
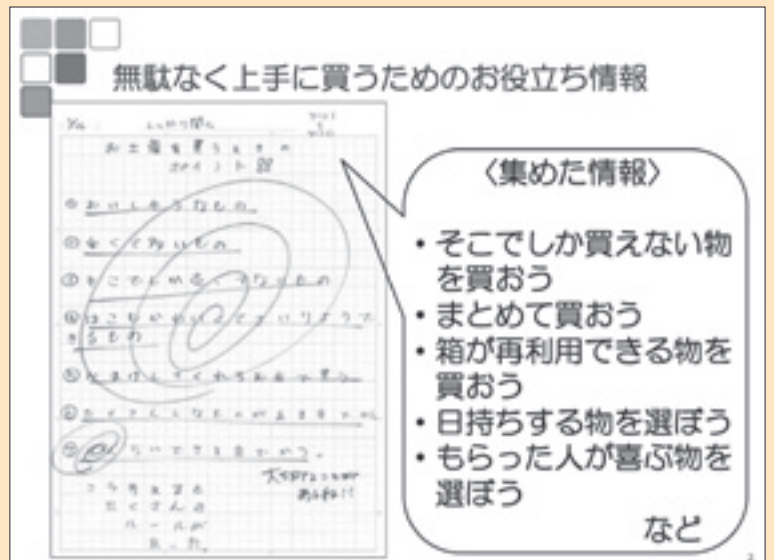
を前提としていましたが、子どもたちから「どうしても買うのか?」という問いかけがあり、「買う・買わないという自己決定」もできる項目を追加。教師も子どもたちも、この買物シミュレーションで多くの気付きを得て、授業内容もどんどん改善されていきました。

「おこづかいをもらっていない児童が多く、まず金額設定が壁になりました。10000円と決定した後、おやつ、文房具、家族への誕生日プレゼントを買うようルールを決めたわけですが、いろいろな考えが出てきて、授業は非常に楽しく展開しました」と当時担任の新村先生は振り返ります。例えば、「誕生日プレゼントだから多めに使おう」、「高く買って買えないものはお金を貯めてから買おう」など、「条件に合わせたお金の使い方」を学ぶきっかけになったことが大きな成果のひとつです。また最初は「買うこと」

【図表3】視点2-(3) 消費生活への理解と関心を高める、他学年他教科等との関連を図った学習指導の工夫 (金融広報中央委員会主催「2014年度 教員のための金融教育セミナー」における発表資料より)



【図表4】「2014年度 教員のための金融教育セミナー」における発表資料より



高学年はその実践へと発展していくという学校全体の取り組みへと広がりをを見せていったことが大きな特徴です(図表3)。6年生では「修学旅行で無駄なく上手にお金を使う」という新たなカリキュラムが、5年生のときに基礎編を学んだ「じょうずに使おう物やお金」の応用編を実践する場となります。修学旅行に関する金融教育として、「修学旅行のお金(3万円)の使い

方について考える」、「無駄なく上手にお金を使うために必要な情報を集める」、「工夫しながら計画を立てる」、「修学旅行で買物体験」、「お金の使い方を振り返る」を計画。修学旅行費用の3万円の価値を学び、そのうち4000円がお土産用のおこづかいとして使えるため、土産物の下調べ、リストアップ、買物メモの作成などを事前学習で実施。限られた場所(土産が買えるのは3カ所)、

限られた買物時間の中ではなかなか難しく、考えた通りにはいかなかった子どもたちが多かったものの、5年生のときの学習を土台に、絶好の実践になったと樋口先生は話します。「3万円を『生きたお金にするため』にも、楽しんで有意義な時間を過ごすという意識が高まり、早起きする練習をしよう」とか、いろいろな枕で寝て慣れておこう」など微笑ましいエピソードも含め、本当に子

※「お土産だからその土地のものを買う」、「贈る相手に喜ばれるものを買う」、「同じ人へのお土産なら友人同士で一緒に出し合ってより良いものを買う」、「お土産を優先して自分の欲しいものは余ったら買う」、「日持ちするものを買う」、「賞味期限を確かめて買う」、「みんなでまとめて買う」などを吹き出しコメントにして表にする。



どもたちが修学旅行を楽しむことにつながりました。また【図表4】のような多くの視点を持てたことも大きな成果だったと思います」。

また、6年生の最終題材「お弁当」を作る調理実習の授業では、買物から子どもたちに任せました。買物の予算の作成から、予算内で買物を行い、最終的には「自分のお弁当は何円ですか?」といった単価計算まで、十分理解できる力に身に付いていたといえます。

「5〜6年生の2カ年にわたり金融教育を実践できた子どもたちの成長を強く感じる結果でした。学校行事である修学旅行と家庭科で共通した枠組みのもとで体験的な学習ができる点は、今後の実践にも活かしていけるという自信になりました」と樋口先生は話しています。

これからの 「生きたお金」の金融教育

家庭科の内容D「身近な消費生活と環境」は現在の学習指導要領から注目されるようになった新しい内容であり、家庭科のエキスパートである樋口先生も、「今後、小学

校家庭科における『消費生活』の題材は大きく変わっていくはずですが」と期待を寄せています。

子どもたちが今回、「下調べや計画を立てることで、生きたお金の使い方ができる」ことを学んだように、家庭科が生きる力につながる総合的な教育になっていくことが、樋口先生の大きな目標です。

なお、実践における留意点として、子どもたちの家庭環境の違いも考え、「品質が一番」、「価格が大事」

といった価値観を押し付けるのではなく「目的に合ったもの、品質の良いものを、より良い価格で買いましょよう」、「お金は無駄なく上手に使いましょよう」という視点をベースにしていると言います。

「今後も継続して家庭科における金融教育の研究を進め、教師の技能や経験にかかわらず指導できる授業案づくりにも力を入れていきたいと思っています。そして、お金や物を大切に育てていきたいですね」。



左から、加藤亜紀子先生、樋口典子先生、新村理昂（まさたか）先生、則友（のりとも）美紀先生

金融教育の現場レポート

じょうずに使おう物やお金 ～めざせ、買物名人～

愛媛県
松前町立岡田小学校 樋口典子教諭